

2018年度
農検3級

日本農業検定3級試験問題

全 50 問

試験時間 40 分

注意事項

※監督者の指示があるまで、この問題を開いてはいけません。

※問題冊子の持ち帰りはできません。

問1 農業・農村にはさまざまな役割があります。次のA・B・Cはその役割をまとめたものですが、正しいものをすべて含んでいるのは①～④のうちどれですか。

- A. 農業の基本的な役割は、私たちのいのちを支える食料の安定生産にある。
- B. 生産だけでなく、農業・農村のもつ^{ためんてききのう}多面的機能として「環境保全への貢献」「地域社会の維持・活性化」がある。
- C. 新潟県佐渡市の「トキと共生する佐渡の里山」の取り組みが「自然環境の保全」に対する取り組みとして高く評価され、2011(平成23)年に世界農業遺産に認定された。

- ① A・B・C
- ② A・B
- ③ B・C
- ④ A・C

問2 日本の食料自給率(カロリーベース)についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ① 食料自給率とは、国内で消費される食料のうち、国内生産でどの程度まかなわれているかを示す指標である。
- ② 2015(平成27)年度の食料自給率はわずか39%で、主要先進国のなかで最低レベルである。
- ③ ここ数年のご飯(米)の自給率は100%であるが、納豆やみそ、豆腐の原料である大豆の自給率は30%と低い。

問3 ^{こうさくほうきち}耕作放棄地についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ① 耕作放棄地とは、過去1年以上の間、作物生産がされず、今後も耕作に使う意思のない土地をいう。
- ② 2015(平成27)年の耕作放棄地面積は42万3,000haで、日本の全農地面積(450万ha)の1割に達しようとしている。
- ③ 耕作放棄地がこれ以上増えないように、農林水産省は^{のうちしゅうせき}「農地集積バンク」を設け、耕作放棄地を所有者から買い上げ、受け手に販売する仕組みをつくった。

問4 野生鳥獣による農作物被害についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ① 鳥獣害の被害額は、2013(平成25)年度から増加を続け、2015(平成27)年度には年間250億円を超えた。
- ② 被害額の約8割は獣害によるもので、獣害の9割はイノシシ、サル、シカによるものである。
- ③ 鳥獣害を深刻化・広域化させている背景には、耕作放棄地の増加が関わっている。

問5 農業・農村の新しい動きについての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ① ^{しんきしゅうのうしやすう}新規就農者数は2015(平成27)年度に6万人を上回った。
- ② 「農産物直売所」は2014(平成26)年度に全国で1万店舗に達した。
- ③ 都市に住む若者を中心に農村への関心が高まり、新たな生活スタイルを求める「田園回帰」の動きがでている。

問6 のうぎようしゆうぎようじんこう 農業就業人口についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ① 農業就業人口とは、農業のみに従事しているか、兼業よりも農業での労働日数が多い人の数である。
- ② 農業就業人口は1990(平成2)年には480万人を超えていたが、2016(平成28)年には200万人を割った。
- ③ 2016(平成28)年には65歳以上の農業就業者が全体の50%に達し、高齢化が進んでいる。

問7 温暖化による日本農業への影響についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ① イネに白未熟粒しろみじゅくりゅうが発生している。
- ② いもち病の激発地帯が南に移動している。
- ③ ブドウやカキで果肉の着色が阻害そがいされる着色障害ちやくしよくしょうがいが発生している。
- ④ 全国的な気温上昇により、害虫の生息域が縮小している。

問8 かんきようふか 環境負荷についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ① 日本の食料自給率を改善することによって、海外からの食料輸入が減少し、輸送にともなう環境負荷が減少する。
- ② フード・マイレージは食料を生産することにもなう環境負荷の指標である。
- ③ 地域から出る廃材や家畜排せつ物からエネルギーを取り出すことで、燃料の輸送にともなう環境負荷を軽減することができる。

問9 農産物直売所についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ① 農産物直売所の営業形態には、個人経営、JA等からの出資、複数の農家による会社組織など様々な形態がある。
- ② 直売所では仲卸による手数料を極力抑えることで、生産者と消費者の双方の利益となる販売価格を実現している。
- ③ 主要道路沿いに設けられた「道の駅」でも、地域振興施設としての農産物直売所を設置する事例が増えている。
- ④ 農産物直売所は全国で約1万カ所に達した。

問10 ちさんちしょう 地産地消の説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ① 地方で生産された農産物を東京などの大消費地まで運び販売することを地産地消という。
- ② ある地域で生産されたものを別の地域で消費する地方間の連携を地産地消という。
- ③ 地元で生産されたものを地元で消費することを地産地消という。
- ④ 地域の産業が活性化し地域の消費活動が高まることを地産地消という。

問11 ヒートアイランド現象についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ① 都市部の気温が周辺部よりも高くなることをヒートアイランド現象という。
- ② ヒートアイランド現象によって、本来なら越冬できない害虫が、気温が高くなった場所で越冬する可能性が指摘されている。
- ③ 地下街の拡大がヒートアイランド現象の原因のひとつである。
- ④ 都市部の緑地や水面が少ないことが、ヒートアイランド現象の原因のひとつになっている。

問12 生物多様性の3つの階層(レベル)についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ① 種の多様性 : 同じ種類の動植物が数多くいる状態をいう。
- ② 遺伝子の多様性 : 同じ種類の動植物は同じ遺伝子を持ち、種類の違う動植物はみな違う遺伝子を持っている状態をいう。
- ③ 生態系の多様性 : いろいろな動植物がかかわり合って生きている状態をいう。

問13 五大栄養素の働きについての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ① 炭水化物は、糖質と食物繊維の総称である。
- ② たんぱく質は、筋肉や臓器、血液の構成成分である。
- ③ 食物繊維は3大栄養素の代謝を助ける。
- ④ 無機質は骨や歯をつくる成分を含む。

問14 牛肉、レバー、貝類、海藻類に共通して多く含まれる栄養素は次のうちどれですか。

- ① たんぱく質
- ② 炭水化物
- ③ 無機質
- ④ 脂質

問15 人のエネルギー代謝についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ① 安静な状態で生命維持に使われる必要最小限のエネルギー代謝量を基礎代謝量きそたいしゃりょうという。
- ② 基礎代謝量は年齢による変化はほとんど起こらない。
- ③ 運動不足になると筋肉が落ち、エネルギーを燃やしにくい体になる。
- ④ 食べ物からとる「摂取エネルギー」が、「消費エネルギー」よりも多くなると、脂肪となって体内に蓄えられ肥満の原因となる。

問16 賞味期限についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ① 開封しない状態で品質が保たれ、おいしく食べられる期限のこと。
- ② 開封したあとも、安全に食べられる期限のこと。
- ③ 開封しない状態で安全に食べられる期限のこと。
- ④ 品質の劣化が早い食品に表示される。

問17 次のマークについての説明で、正しいものは次のうちどれですか。



- ① 食品のトレーサビリティが正確に表示されていることが認められた加工食品につけられるマーク。
- ② 農林水産省の規格・基準に適合していると判定された飲食料品や林産物に表示されるマーク。
- ③ 消費期限、賞味期限が厚生労働省の定めた基準に適合している加工食品につけられるマーク。

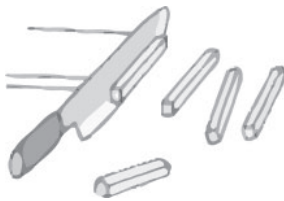
問18 食中毒予防3原則に含まれていないものは、次のうちどれですか。

- ① 細菌を増やさない
- ② 細菌をつけない
- ③ 細菌を見落とさない
- ④ 細菌を殺す

問19 食品のトレーサビリティについての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ① 食品の移動を把握できるように、商品の生産・加工・流通の段階を通じて記録を作成し保存しておくこと。
- ② 食品事故などのときに、原因究明や商品回収を円滑に行えるようにする仕組みである。
- ③ トレーサビリティは、「生産工程管理」とも呼ばれている。

問20 図で示した野菜の切り方で、正しいものは次のうちどれですか。



- ① 輪切り
- ② いちょう切り
- ③ 乱切り
- ④ ひょうし木切り

問21 種子の発芽に必要な3つの要素は、空気(酸素)と水ともう一つは、次のうちどれですか。

- ① 肥料(養分)
 - ② 温度(適温)
 - ③ 光(日当たり)
-

問22 種子に光が当たると発芽が抑えられてしまう野菜は、次のうちどれですか。

- ① カボチャ
 - ② セルリー
 - ③ レタス
 - ④ ミツバ
-

問23 野菜と日当たりについての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ① ネギは日当たりを好み、日陰では健全に育たない。
 - ② ナスは曇り続きで日照量が少なくてもそれほど生育が停滞しない。
 - ③ フキは半日陰から日陰を好み、日照量の少ない場所でよく生育する。
 - ④ ダイコンは日陰を好み、日照量の少ない場所でよく生育する。
-

問24 植物が光合成を行なう上で必要としないものは、次のうちどれですか。

- ① 光のエネルギー
 - ② 植物細胞中の葉緑体
 - ③ 空気(二酸化炭素)と水
 - ④ デンプンや糖などの炭水化物
-

問25 植物の呼吸作用についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ① 植物は動物と同じように、生きていくために呼吸をしている。
 - ② 呼吸は、体内に酸素を取り込み、炭水化物を分解し、体の維持と成長に必要な「生命活動エネルギー」をつくりだす作用である。
 - ③ 植物の呼吸は、動物と違って日の沈んだ夜だけ行なわれている。
-

問26 ^{きこう}気孔とその働きについての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ① 気孔は主に葉の表にあるおもて小さな組織で、一对のこうへんさいぼう孔辺細胞でできている。
- ② 光合成を行なうときの二酸化炭素の取り入れと酸素の放出口になっている。
- ③ 呼吸作用を行なうときの酸素の取り入れと二酸化炭素の放出口になっている。
- ④ 蒸散作用を行なうときの水分の出口になっている。

問27 肥料の3要素についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ① 窒素(N)は、葉肥と呼ばれ、葉や茎の伸長を促進する。
- ② リン酸(P)は、茎肥・根肥と呼ばれ、茎や根を丈夫にする。
- ③ カリウム(K)は、花肥・実肥と呼ばれ、開花や結実を良くする。

問28 化学肥料と有機質肥料についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ① 化学肥料とは、化学的に処理(合成)された無機質肥料のことをいう。
- ② 化学肥料には、肥料の3要素の中の1種類しか含まない「単肥」と、単肥を混合して2種類以上を含む「複合肥料」がある。
- ③ 有機質肥料とは、生物(植物や動物)由来の有機物質からつくられた肥料のことをいう。
- ④ 有機質肥料は、単品でも3要素の成分バランスがよいものが多い。

問29 作物を育てる^{どじょう}土壌についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ① 作物の生育に適した良い土とは、通気性がよく保水性や保肥力もあるだんりゅうこうぞう団粒構造の土である。
- ② 団粒構造の土にするためには、砂や粘土などの土壌粒子を結びつけるふしよく腐植が必要になる。
- ③ 腐植は微生物が土壌中の無機養分を分解することで増加する。

問30 作物栽培にかかわる^{どじょうさんど}土壌酸度(pH)についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ① 一般に多くの作物の生育に適した土壌のpH値は、5.5～6.5の弱酸性といわれている。
- ② ホウレンソウはpH値の高い土壌を好み、サツマイモはpH値の低い土壌でもよく育つ。
- ③ 土壌のpH値が低い場合は、石灰(カルシウム)を施して酸度を調整する。
- ④ 土壌の酸度調整には、有機質のくどせつがい苦土石灰がよく使われる。

問31 野菜の病害についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ① 野菜の病害のおよそ5割がカビ(糸状菌)によるものといわれている。
- ② うどんこ病は、乾燥時には発生せず、多湿状態で発生しやすい。
- ③ 細菌が原因の腐敗(軟腐)病は、病原菌が水で移動するので土の水はけが悪いと被害が拡大する。
- ④ 細菌よりもごく小さいウイルス感染によるモザイク病には、専用の農薬を予防的に散布しておくことが必要である。

問32 野菜の害虫についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ① ヨトウムシは主に果実を食い荒らす害虫で、日中だけでなく暗い夜間でも食害する強害虫である。
- ② ウリハムシは、ナス科のトマト・ナスに被害を与える吸汁性^{きゅうじゅうせい}の害虫である。
- ③ アブラムシは、食害性の害虫で、植物に寄生するウイルスを媒介する。
- ④ ナナホシテントウは、害虫ではなく、吸汁性のアブラムシの天敵である。

問33 プランター栽培についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ① 葉菜類には土の容量が15L程度の標準プランター、果菜類には容量が30L以上の深型プランターが適している。
- ② 用土として大切なことは、水はけ、通気性、適度な保水性、保肥力があり、有機質に富むことである。
- ③ 市販の培養土は肥料の3要素を入れて販売することになっているので、元肥を入れないで栽培する。
- ④ 肥料は元肥も追肥も株元から離れたところに条溝施肥^{じょうこうせひ}する。

問34 イネの種もみと発芽についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ① 種子が発芽するのに必要なエネルギーは、胚乳にデンプンとして蓄えられている。
- ② イネの芽出しの判断に使う積算水温とは、1時間ごとの水温を24時間分合計したものである。
- ③ 種もみは10～15℃の水に2日間つけておくと1mmほど芽が出てくる。

問35 バケツイネの栽培についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ① 比重1.13の塩水で浮く種もみが、発芽に必要なエネルギーがしっかりと詰まった良い種もみである。
- ② 芽出しとは種もみを水に浸け、芽を2cmほど出させることをいう。
- ③ 種まき後、葉が3～4枚になるまでは強い光に弱いので、直射日光を避ける。
- ④ 中干しは土の表面にひび割れが出てきたら終了し、再び水を5cmほど張る。

問36 カブの基本的特性についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ① 日照が多いと葉とカブが充実するが、半日陰でも栽培できる。
- ② 過湿に弱いため、カブの肥大時期は灌水^{かんすい}を控えめにする。
- ③ 砂が多めの土より粘土質の土の方が、カブの肌がきれいにできる。

問37 カブの栽培についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ① 食用にする部分(肥大部)はほとんどが地上で肥大するので、15L容量の標準サイズのプランターで栽培できる。
- ② 種まき後は、害虫の被害を防ぐために不織布や防虫ネットをかけておくとよい。
- ③ 肥料が多いとス入りの原因となるので、小カブでは追肥を避けたほうがよい。
- ④ 小カブの場合は肥大部が直径5～6cmになり、土から肥大部が少しもち上がってきたら収穫の適期である。

問38 赤カブについての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ① リコピンという色素が含まれており、表面が紅色をしている。
- ② ほとんどの赤カブでは、内部まで薄い赤色をしている。
- ③ 栽培方法は、同じ程度の大きさ・形状の白カブと同様に行なう。
- ④ 北海道から東北までの比較的寒冷な地域で栽培されている。

問39 コマツナの栽培についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ① 栽培期間が長く、根が深く張るため、標準プランターではよく育たない。
- ② 冬、保温のためにビニールを使ってトンネル栽培する場合は、隙間風が入らないようにビニールの裾をしっかりと押さえておくことが大切である。
- ③ 1回目の間引きまでは、種子が流されるので灌水^{かんすい}をしてはいけない。
- ④ 追肥の肥料は株に直接ふれないように、条間かプランターの縁に施す。

問40 コマツナの基本的特性についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ① 低温にも高温にも耐えるので、一年中栽培できる。
- ② 生育には強い光を必要とする。
- ③ 水分を好むので、土が乾くと生育が悪くなる。
- ④ 酸性土壌にも比較的強く連作障害^{れんさくしょうがい}が出にくい。

問41 コマツナの生産と流通についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ① コマツナは昭和に入ってから育成され、食べられるようになった野菜である。
- ② 品質保持のため、「予冷」と呼ばれる出荷前の冷却が行なわれている。
- ③ 2015(平成27)年の生産量上位は埼玉県、茨城県、福岡県であった。

問42 シソの栽培についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ① 日陰や半日陰で育てると苦みやエグミの原因となる。
- ② 種まきの2日前に種子を水に浸けておくと発芽しやすくなる。
- ③ わき芽からは品質の良いものが収穫できないので、わき芽は小さいうちに取り除いておく。
- ④ 花穂ジソの収穫適期は、花軸の先の方に花がまだ少し咲き残っている頃である。

問43 青ジソと赤ジソについての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ① 青ジソの葉は夏の時期だけに出回る旬の野菜である。
- ② 青ジソはアクがあるため、アク抜きしてから利用する。
- ③ 赤ジソは青ジソに比べて葉が大きくなるので、大葉と呼ばれている。
- ④ 赤ジソは梅干しや漬け物の色づけ、ジュースなどの加工品に利用される。

問44 シソ科の野菜についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ① エゴマは葉から抽出した油が食用油として利用されている。
- ② バジルは生葉、乾燥葉、花穂と様々な部位が食用に使われている。
- ③ 料理の香りづけとして使われるミント、ローズマリーはシソ科の野菜である。

問45 レタスの栽培についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ① プランター栽培に適しているのは、結球レタスである。
- ② どう立ちさせることで、品質が高まる。
- ③ 嫌光性種子けんこうせいしゆしなので、播種はしゆした後の覆土は厚めにするとよい。
- ④ 土が乾燥すると品質が低下するので、夏場は1日2回を目安に灌水かんすいするとよい。

問46 レタスの基本的特性についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ① 結球レタスは結球時に強い光が当たると葉球の締まりが悪くなる。
- ② 生育には15～20℃の冷涼な気候を好み、10℃以下では生育が悪くなる。
- ③ 土が湿っていると葉の生育が悪く結球が抑えられる。
- ④ アルカリ性の土壌が適している。

問47 一季成りイチゴと四季成りイチゴについての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ① 「とちおとめ」は四季成りイチゴの代表的な品種である。
- ② 一季成りイチゴは高温、長日で花芽分化する。
- ③ 四季成りイチゴは、春から秋にかけて実がなる。

問48 イチゴの栽培についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

- ① 四季成りイチゴは低温に合わせて花芽分化をさせた苗を定植することが大切である。
- ② イチゴの成長点はクラウンにあるので、定植するときにクラウンを土に埋め込まないように注意する。
- ③ 花が咲き始める頃から夏にかけては、たっぷりと灌水する。
- ④ 人工授粉は、開花した花の中心部を梵天^{ぼんてん}などでなでるようにして花粉を雌しべにつける。

問49 エダマメの栽培についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ① 根に根粒菌が住み着けるよう、直まきで栽培する必要がある。
- ② エダマメは乾燥に弱いので、発芽後から花が咲き始めるまでは、毎日欠かさずたっぷりと灌水^{かんすい}することが大切である。
- ③ 1回目の増し土は本葉が3～4枚のころ、初生葉が隠れるまで土をかぶせる。
- ④ 摘しんすると、倒伏防止になるとともに、わき芽が伸びて側枝が多くなり収穫量が増える。

問50 トウモロコシについての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

- ① ダイズのスプラウトである。
- ② 病気になるやすいので、種は殺菌消毒したものを使う。
- ③ 収穫まで日当たりの良い場所で育てる。
- ④ 収穫後も灌水^{かんすい}を怠らなければ、6～7回繰り返して収穫できる。

日本農業検定